

日本乳癌学会全国乳がん患者登録調査報告 -2004 年次症例予後成績報告-

木下 貴之（国立がん研究センター中央病院）

1975 年に日本乳癌学会の前身の乳癌研究会の事業として全国乳がん患者登録調査は開始され、2003 年まで旧システムにて 29 年間実施された。2003 年に成立した個人情報保護法に適合し、WEB システムに変更された新たな登録システムが 2004 年に導入された。これに伴ってデータセンターも国立がんセンターから J-CRSU NPO 法人 日本臨床研究支援ユニットと公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンターへ移行した。

今回、新規登録システムへ移行後の初年度である 2004 年度症例の 5 年予後成績を報告する。2004 年度は全国 317 施設から 16,087 症例の登録があった。うち 156 施設から 8585 症例（全登録症例の 53.4%）の予後情報の入力を頂いた。これら予後データは、日本の乳がん医療の進歩に役立つと考えられたため、更なる予後情報入力率の向上が今後の課題である。

2004 年度登録患者の 5 年無病生存率は 91.5% で 5 年全生存率は 90.7% であった（観察期間中央値は 60 ヶ月（範囲 0.0-60.0））。さらに UICC/TNM 分類と WHO 病理組織学的分類を用いた。TNM 分類、年齢、病理学的腫瘍径（t）別、サブタイプ別の 5 年無再発生存率および 5 年全生存率などについて解析した。これらのうち病期別の結果を図 1 に示した。これらの予後付きデータは UICC 病期分類の次回改訂の際に役立つはずである。また、2004 年は HER2 陽性乳がん患者に対して術後補助療法として trastuzumab の保険適応がなく殆ど使用されていない。従って 2004 年度症例の予後データは将来、術後抗 HER 療法未使用群として貴重な比較データとなることが考えられる。

